

津田校区だより

発行所
津田校区
コミュニティ協議会
福祉委員会
広報部



津田校区コミュニティ協議会 会長 長村 幹夫

「いんぱんに大きい地震が来るとは...!」

新年が明け令和6年が始まりました。校区の皆様におかれましては、ご健勝で活躍のことと存じます。日頃は、本協議会の各種団体に対しまして、ご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、元日の能登半島を襲った最大震度7の激しい地震は、深刻な被害を与えました。建物は次々と倒壊し、死者の大多数は圧死（胸部あるいは胸腹部が圧迫され、呼吸運動が障害されて窒息死すること）だったとみられています。お亡くなりになられた方々にお悔みを申し上げますとともに被災された方々にお見舞いを申し上げます。

新聞によれば、地域の耐震化は遅れていたとのこと。1981年に導入された新耐震基準を満たした住宅の割合（耐震化率）は、輪島市46%（2022年度）で、全国平均の約9割より大幅に低いとのこと。さらに、能登半島一帯で続く群発地震によるダメージの蓄積が被害を広げたとみられている。専門家は、基準を満たした建物でも、繰り返し強い揺れで、柱とはりの接合部分などが弱っていた恐れがあったと指摘しています。

今回の地震では、2011年の東日本大震災以来となる大津波警報が能登地方に発表され、住民は迅速な避難を迫られました。避難した多くの人は、「日頃から避難訓練に参加していたのが役立った」と語っています。地域の自主防災組織が中心となり、避難所まで逃げる経路を確認してきたことにより、津波で亡くなった人は建物倒壊による圧死に比べ、大幅に少なかったと見られています。

以上のことから、自分や家族の身を守るためには、避難訓練などによる日頃からの意識付けに加え、家屋が倒壊して避難の妨げとならないよう、耐震補強を進めることがより大切になると考えます。

まだまだ感染症の流行に気をつけなければならぬ状況ではありますが、校区の皆様におかれましては、ご健康に留意されたいと思います。益々のご活躍をお祈り申し上げますとともに、今後も本協議会の活動に對しまして、ご厚情とご鞭撻並びにご理解ご協力を頂きますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



津田校区福祉委員会 会長 平尾 賢一

津田校区福祉の町づくり計画、仕上げ近くに

一月一日に起きた能登半島地震は、家屋倒壊・土砂崩れ・津波浸水・土地隆起などの現象で長年住み慣れた地域に住まわれる方々の暮らしを奪った。死者二百四十人の方々にお悔やみ申し上げます。また、住まいを無くされたり、いつ倒壊するか心配されたり、ライフラインの復旧が遅くなったりして、避難された方が一万四千人おられるという、津田住民の一二五倍にあたる人々だ。皆さん一様に、早く故郷に戻りたいという気持ちをお持ちだと思います。福祉委員会では、枚方市内他地域に比べて遅れている「福祉の町づくり計画」を作成しようとアンケートをとって意見をいただいた上で、六名の策定委員を依頼し、（校区の特色）（校区の状況）（校区福祉委員会が目指すもの）（五ヶ年計画）について月一回の会合を開いて話し合いや学習会を開いてきました。

例えば、（校区の特色）として、以下のようにまとめています。
「古くから農業を中心とし津田山を後背に春日神社を産土神とし、地域的な繋がりを大切にして発展してきた。枚方市の都市機能を発揮すべく津田山の開発・農地の宅地化などが進み、先祖から受け継いだ住宅に住む人々と新しく建った住宅に住む人々との二極化が進みつつある。人口の内、六十五歳以上の人数を全人口で割った割合（高齢化率）三十%に対し、中壮年層は六十%となり次代を担う人材の輩出が待たれる（中略）今後、年齢層を踏まえた福祉の課題を解決する方策と地域への関心を高める活動を充実することが必要だろう」としています。

校区に住むみんなが故郷・津田を愛することができる「津田校区福祉の町づくり計画」を楽しみにして下さい。

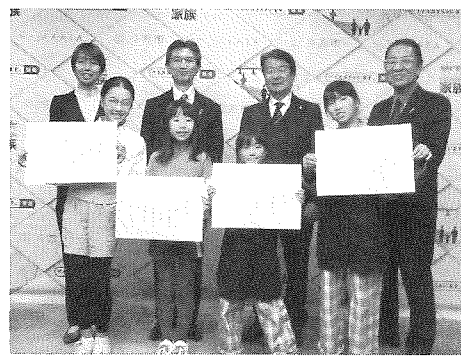
津田小学校の児童の善行に対し 教育長より表彰されました

二学期の終業式を翌日に控えた十二月二十一日、津田小学校に在籍する児童四人が、枚方市教育委員会にて、教育長より表彰状をいただきました。表彰されることとなった出来事は、次のとおりです。

令和五年八月二十四日、午前八時四十五分頃、オーブンスクエアに行くため、津田小学校に向かって歩いていたら、「助けて」という声が聞こえてきました。四人は、近くの交番に行き、お巡りさんに報告し、お巡りさんが不在だったため、保護者に相談した上で、状況を知らせに職員室に行きました。話を聞いた教頭が、すぐに交野警察署に連絡しました。その後、警察官が付近を捜索したところ、倒れている人を発見し、救助。四人の迅速な行動のおかげで、事なきを得たと、交野警察署より学校へ連絡

付けさせたい力です。「見えない学力」を育てるためには「人を大切にすること」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」の四つが必要だと、大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生は、おっしゃっています。これらの力を伸ばすことで、「見える学力」も伸びていくと言われています。これからも、「学校・家庭・地域」が三位一体となって、この四人のような子どもたちを育てていきたいと考えておりますので、益々のご理解とご協力をお願いいたします。

(文責・大泉エリ子)



安全のために

津田小学校区交通対策支部長 藤田 勝己

正月早々震度7という大地震に石川県能登半島が見舞われました。震度7といえば阪神淡路及び東北の大地震と同じ規模ですが、地震の大きさは阪神淡路よりも大きいのではないかと思われます。復興が早まるのを祈るのみです。又次の日に羽田空港で自衛隊機と日航機が接触炎上する大事故がありました。日航機乗員の機敏な判断と行動で乗客乗員無事という快挙でした。新聞記事等で推測するに双方の連絡解釈の仕方が違って起きたのではないかと考えています。

さて本題である交通安全の話となりますが、昨年1年間交通事故で亡くなった方は2678名であり大阪府内交通事故死者数2年連続ワースト1位の148名、次に愛知県145名、3位に東京都136名です。又重傷者数は大阪府3057名で8年連続ワースト1位であり、自転車の事故も1152件とワースト1位(2位に大

令和5年度 津田校区ミニ運動会開催(報告)

主催：津田コミュニティ協議会



令和5年11月12日(日)曇り空の中、津田小学校グラウンドで実施しました。津田コミュニティ協議会構成団体の皆さんにスタッフとして協力頂き、当日は参加者を含め約200名の方で実施する事が出来ました。

スタッフは8時に集合し、その後運動会の準備をそれぞれ行い、参加の皆さんは9時から受付を行い、開会式を9時30分から始め、ミニ運動会は12時半ごろ無事終わる事が出来ました。

競技は予定通り進められましたが、放水レース、魚釣り競走の準備、レース毎の設置に少し時間を要したので、結果的に予定していたサプライズの玉入れ競技は残念ながら時間調整の為中止となりました。

最後のジャンケンゲームは、当日参加された皆さん全員で行い、盛り上りの中、楽しく終わる事が出来ました。

ご協力頂きましたスタッフの皆さん、参加の皆さん大変有難う御座いました。



初めての企画 子ども達と学校給食をいただきました

一月三十一日(水)十二時から津田小学校のご協力をいただき給食体験会を行いました。この企画は喫食人数に限られることから、福寿会・東福寿会・くらわんか体操参加者・民生児童委員に案内し、三十六名の希望者を募りましたが当日は三十二名の参加となりました。十二時前には皆さんエプロン・マスク・三角巾などをつけ家庭科室に集まりました。配膳は民生児童委員を中心に、献立は白ご飯・ラーメン(人参・コーン・青梗菜・もやし・青ネギなど細かく切った物入り)・鶏肉団子・高菜のふりかけ(ちりめん・人参入り)とアルマイトではなくセラミックの皿と椀が使われています。椀は白く枚方市の鳥カワセミが描かれたものでした。それに栄養を考えた二百ミリリットルの生乳百パーセントの紙パックがついています。喫食した後、「おいしい」「細かく調理している」「食べきれないくらいだ」の声が聞かれました。食後、三年生の二クラスの子ども達に来てくれ、食器棚

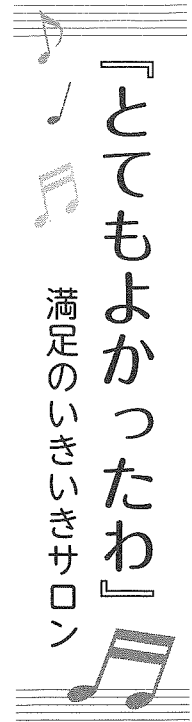
側と教室後ろに並んで高年齢者と子供たちの交流会です。「こんにちは」のあいさつで始まり、「子どもの頃の給食はどんなでしたか」の質問に、「給食は津田ではなかった」「コッペパンと脱脂粉乳の給食が交野ではあった」と思い出を語ったりしました。そのあとはリコーダーで「川は呼んでる」の演奏、歌で「ありがとうの花」を聞かせてくれました。



「いつまでもお元気で」との言葉を言ってくれ、ほろっと来た人もいたようです。校長先生は、二月の学校だよりで、会の様子を詳しく報告して下さっています。来年度は、今年の反省に立って、より多くの高齢の方に体験できるようにして行きたいです。

令和六年一月二十日(土)津田生涯学習センター四階ホールで開かれた。今回は昼食をいただいていたからの演奏会。幕が開くと、真っ赤なドレスの女性六人「フルートアンサンブルピュア」のフルート演奏が始まる。

「越冬つばめ」「恋のバカンス」など十二曲を披露していただいた。やがて自己紹介があり中心におられた方が、なんと「八十五歳です」と言われた時には会場が一瞬ワツとなった。続いて馴染み深い曲の演奏となった。朝のドラマ「東京ブギウギ」「瀬戸の花嫁」など。「瀬戸の花嫁」では八十五歳のNさんが演奏に合わせて踊られ、素敵で、参加者がより一層大きい拍手を送った。そのあと、「ここに幸あり」「青い山脈」「高原列車は行く」など歌詞を書いた紙を譜面台に貼られ



会場のみんなで一緒にフルートの音に合わせて歌った。最後は「ふるさと」を、手話を交えた演奏で吹かれ、全員が歌った。更にアンコールに添えて演奏されておしまいとなった。

お腹も満足、耳も満足、聞きながら歌いながら、きつと懐かしい場面が頭の中に浮かんだことだろうと思います。

津田校区の人口・世帯数・高齢化率 (65歳以上/人口)

(令和6年1月16日現在)

- ・ 男性 5,567人・女性 5,658人 計 11,225人
- ・ 世帯数 5,502戸 ・ 65歳以上 男性 1,451人 女性 1,049人 計 3,305人
- ・ 高齢化率 29.4%

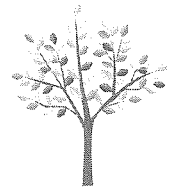
令和5年 地域福祉募金に

ご協力ありがとうございました。

令和5年度 地域ふくし募金 399,175円

1月31日現在

※昨年度は458,535円でした。※令和6年度助成金は199,587円(予定額)です。



その他の募金

—ご協力ありがとうございました—

- 赤い羽根共同募金 212,974円
- 歳末助け合い募金運動 187,537円



編集後記

今年には辰年だが、新年早々痛ましい震災・事故に心震えた方が多かった。龍が早く幸せの玉を掴んでほしい。▼五年度終わりになっている行事が目白押し之感がする。という意見を聞く。年間を見通し、津田地域の人々が色々な場で理解が深まり合えるようにしたいものだ。▼夢叶い、希望の持てる辰年にしたいものだ。